

平成27年度 生活・自立支援キャンプ事業

子ども生き生き体験学習

- 趣 旨 母子生活支援施設との連携を深め、様々な体験活動をとおして、子供たちの豊かな情操を養い、自立を支援する。
- 期 日 平成27年5月16日(土)～17日(日) 1泊2日
- 対 象 者 母子生活支援施設「菊花寮」に入所している親子
- 募集定員 無し
- 参加者 13人(未就学児2人 小学生5人 保護者4人 菊花寮指導者2人)
- 指導者 国立大隅青少年自然の家職員

7 日程と主な活動

(1日目)	9:55	10:40	11:10	12:00	13:00	16:00	20:00	21:00
5月16日(土)	《生活》 垂水フェリー 乗船	自然の家 へ移動	出会いのつどい オリエンテーシ ョン	昼 食 レストラン	《体力》 スポーツ クライミング	《生活体験》 夕食作り 夕 食 後片付け シャワー	《自然》 星空観測 クラフト	一日の まとめ 就 寝

(2日目)	7:00	9:30	10:00	12:00	13:00	13:40	14:05	
5月17日(日)	起 床	《生活》 朝のつどい 朝食作り	新城海の家 へ移動	《自然》 カヌー体験	昼 食 弁 当	振り返り アンケート 別れのつどい	垂水港へ 移動	《生活》 垂水フェリー 乗船

8 事業運営について

(1) 今回は、母子生活支援施設と連携して、施設で生活する親子を対象に体験活動を行うことにより、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成に貢献できるよう心がけた。

(2) 未就学児や小学校低学年児童の参加が多かったが、食事作りにおいては可能な限り子供たちが参加できるよう配慮した。

(3) スポーツクライミングやカヌー体験など、未経験の活動を行う中で、子供たち自身が達成感や満足感を味わうことができるよう工夫した。



9 事業の実際

- (1) 子供たちはこの事業に参加することを非常に楽しみにしていたためか、鴨池港からのフェリーでの移動中、低学年の子供たちは大声を出したり座席に立ったりと、落ち着きのなさが見られたので、指導を要した。
- (2) オリエンテーションの中で、子供たちが事故や大けがにつながる言動を行った場合には、厳しく指導する旨を保護者に伝え、生活指導の必要性を伝えた。
- (3) スポーツライミングでは、何回も挑戦する子供がいて、頂上に到達したときには満足感に満ちた笑顔を浮かべていた。保護者の中からも参加者が出て、親子互いに声援を送る温かい場面が見られた。
また、プレイホール内の遊具を利用し、親子で汗をかき、リフレッシュできる時間を設定した。
- (4) ライフジャケットを身に着け海に入り、沈まないことを確認したことにより、恐怖心を持つことなくカヌー体験に入ることができた。
- (5) 子供たち全員が、初めてのカヌー体験を楽しんでいた。中には、漕ぎ方のコツをうまくつかみどんどん上達している子供もいた。



10 成果

母子生活支援施設の職員と事前打合せ等を入念に行い、本事業の目的と内容について共通理解を図ったことから、子供たちや保護者の実態にあった活動を実施することができた。

子供から、「自然の家では、スポーツライミングや夕食作りをしました。夕食はカレーで、とてもおいしかったです。自然の家は楽しいなと思いました。」といった感想が寄せられた。

保護者から、「仕事が忙しく、子供とあんまり遊ぶことができていなかったのが、良い思い出になりました。」といった感想が寄せられた。

施設指導者から、「子供だけでなく、お母さん方も楽しんでいる様子で、普段のパート・家事の息抜きになったのではないかと思います。」といった感想が寄せられた。

今回参加された施設を含め他施設に対し、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成のために体験活動の必要性を引き続き呼びかけていく。

